

column

よく聴く, よく診る, よく触る

酒井昭典*

日本医師会の日医 NEWS(第 1026 号, 平成 16 年)に作家の曾野綾子さんが書かれていた「今, 眼の前にいる患者」という題名のコラムが, 私はとても印象に残っています。「機械を治す場合には機械を知らねばならないように, 人間を治すには人間を知り, 人間との付き合い方に長けていなければならない。しかし問題なのは, 昨今, 病気は学んでも, 人間を学ばない医師が多過ぎるということだ」「腹の立つ患者をどう扱うか, に関して, ドクターたちに一つ有益な方法をお知らせしようかと思う。私たちカトリック教徒は, 神がどこにいるかを考える。(中略)それは, 神は, 今我々が相対している人の中にいるということだ。VIP 患者としてやって来た大臣の中にもいるが, 不潔な服を着て意識不明で運び込まれて来たホームレスの中にもいる。だから医師は誰に対しても同じ丁寧さと優しさを持って接するのが当然なのだ。(中略)毎日, 患者の数だけ姿を変えて現れる神と会い続けられる職業だと考えると, やはり医師という仕事は飛び抜けてすばらしいものである」と書かれています。

医師もいろいろいますが, 患者もいろいろいます。疾患のみならず, その患者が何で困っているのか愁訴をよく聴き, さらに, 患者の性格や価値観, 社会的背景を知ること, 適切な治療法選択に結びつくことは多くあります。自分だけでは知り得ない情報を看護師, PT・OT, ケアマネジャーなどから収集します。最先端の治療を求めることだけがすべてではありません。患者と真摯に向き合い, 患者に寄り添い, 最善の医療を提供できるように日々悩み, 学んでいく必要があります。話をよく聴くことで見過ごされてきた症状にも目を向け, 改善できることも多くあります。効率を重視する中においても患者との会話を通じて患者という人間を知ることの大切さを痛感します。「よく聴く, よく診る, よく触る」ことが日常診療の原点であると思っています。

* 産業医科大学整形外科〔〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1〕Department of Orthopaedic Surgery, University of Occupational and Environmental Health, Japan

Author Akinori SAKAI